

# 平成 24(2012)年度 事業計画

平成 24(2012)年 4 月 1 日から平成 25(2013)年 3 月 31 日まで

(平成 24 年 3 月 14 日理事会議決)

公益財団法人 日本自然保護協会

生物多様性の道 (中期事業目標)

生物多様性条約 COP10 及び国連生物多様性の 10 年を踏まえ、NACS-J では、2011 年度から「生物多様性の 10 年事業」をスタートした。

本事業は、「生物多様性の道プロジェクト」と名付け、地域の暮らしに根づいた生物多様性保全を実現することを目標とし、次の 3 つの方針で進めている。

- ①地域が主体となった地域づくりの一環としての生物多様性保全となるよう、自治体 (市町村) への普及啓発を行い、地域住民が主体的に実施できる保全活動の実践、提案を行う
- ②生物多様性保全は「環境」分野の取り組みという偏った概念を払拭し、健全で持続可能な農林漁業を支えるものであること、保全型の土地利用や土木は持続可能な地域経済と新たな産業を創出するものであること、を実例と実践で示す
- ③全ての事業において①②の主旨を具体的に示した事業の説明を行ない、紙媒体や Web で発信し、パブリックウェアネスを高める

【2011 年度の成果】

「愛知ターゲット」の実現に向け、各自治体の「生物多様性地域戦略」が、地域の人たちの意見や思いを十分に反映させて作られることを促すために、「生物多様性地域戦略ガイドブック」を発行し、普及啓発のシンポジウム「みんなで作る生物多様性地域戦略～暮らしと自然の未来像～」を開催し、多くの参加を得た。

また、保護事業、保全活動の各地の現場 (赤谷・大浦湾・綾・大隅・漆など) では、①②の方針に沿い、自治体のほか地域の多様な人たちに参加してもらいながら、里やまや森林・湿地・海辺の保全、地域づくりの実践を行ない、保全の状況を前進させた。

ウェブでは「BD10.jp」を開設し、広く生物多様性情報の発信と収集を行ったほか、生物多様性保全のパンフレットを作成・配布し普及を図った。

【2012 年度の重点目標】

今年度は、愛知ターゲットを受け、生物多様性国家戦略の改訂が行われることから、4 月に国家戦略シンポジウムを開催し、特に保護地域の拡大や土地利用に関する提言、市民や NGO からの意見を反映させるための働きかけを行う。

また、地域戦略づくりと保全活動の更なる普及を図るために各地で活動する NACS-J 会員・自然観察指導員、市民グループ等呼びかけ、自治体を巻き込んだ地域戦略の学習イベント、「人と自然のふれあい調査」講習会の開催を図る。そのモデル的活動として、北総地域 (関係 7 市町村) において「生態系サービスのマップ」づくりと NGO のネットワーク化に取り組む。このほか、NACS-J の各事業の現場 (赤谷・綾・漆・中池見) 等で進める生物多様性を軸にした地域づくりについて実践事例を交流させ、進めるシンポジウム「生物多様性を軸にした地域づくり (仮称)」を開催する。

また、全事業での広報活動への取り組みを強化するため、各部の職員から構成される広報チームを設け、日常的な調整及び定期的な広報会議の開催により、各事業をつないで効果的な広報を行い、寄付・会員増を図る。

事業名		2012 目標	事業内容
1	国家戦略改定への働きかけ	・国家戦略改定に、市民や NGO の意見を反映させる。	①道プロ定期運営会議(1 回/月)の開催、アドバイザー会議の開催運営 ②生物多様性国家戦略への提言 (特に保護地域や土地利用など) ③国家戦略シンポジウムの開催(4 月)
2	市民主体の生物多様性保全の地域づくり	・2011 年度までに作成したツールを活用して、市民が参加する地域づくり・行動計画づくりを支援する。	①北総地域における地域戦略づくりと「生態系サービスのマップ」づくりと NGO のネットワーク化(下総) ②「生物多様性を軸にした地域づくりシンポジウム(仮称)」の開催(1 月) ③地域戦略学習会・ふれあい調査講習会の出前開催
3	道プロ広報	・プロジェクトが目指す地域づくりのイメージを共有できる人を増やす。 ・支援者・支援企業を見つける。	①ガイドブック『ここからはじめる生物多様性地域戦略』を普及するリーフレット作成 ②生物多様性の道プロジェクト専用ウェブサイトの改定

# 保護プロジェクト事業

## 2012年度の目標

保護活動を推進し広く社会の支持と寄付を獲得していく

事業名	2012目標	事業内容
1 (新)保護委員会(専門委員会)の設置と運営	日本の社会情勢を見渡した中長期の保護活動の目標と計画を明確にし、活動に運動させていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな保護活動の中長期目標・計画の検討</li> <li>・個別テーマの推進の相談・検討の場をつくる。</li> <li>・近年10年程度の保護活動の検証</li> <li>・保護委員会の設置と中長期計画のまとめ公表</li> </ul>
2 現場の保護問題解決活動	人的資源を活用し、研究者や地域NGOとの連携力を発揮させ、問題解決を導く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域保護問題への対応と支援</li> <li>・各地の保護問題の情報発信(メディア関係者への情報提供・リリースの工夫)</li> <li>・寄付パンフ・広報等との連動</li> </ul> <p>&lt;主なテーマ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リニア中央新幹線計画への対応(シンポジウム・意見表明等)</li> <li>・再生可能エネルギーの導入(地熱、風力等)施策への対応</li> <li>・自然保護施策と地方分権・移譲</li> </ul>
3 沖縄海域の保護活動	自然を破壊し、無駄な埋立の計画・工事を止める(辺野古・泡瀬)自主ルールによる沿岸管理方法の確立を目指す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モニタリング調査(NACS-J主体、研究者、地域住民)の実施や支援。</li> <li>・シンポの開催・話し合い等などの設定。</li> <li>・意見書や抗議により事業進捗への歯止めを打つ。</li> <li>・埋め立てにかかわる制度改正に向けた検討。</li> </ul>
4 日本の沿岸域の問題提起と提言活動	沿岸域の保全にかかわる問題提議と提言を具体的にしていく	<p>沿岸管理検討会(特別委員会)の運営により、広く沿岸問題を集め、沿岸管理のあり方議論する。提言をまとめ、シンポジウム等を通じ社会的な議論、現場の問題解決に結びつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本の海洋保護区のあり方」の提言、シンポジウム開催、IUCN世界自然保護会議(韓国)ノレッジカフェ</li> <li>・「人と海の関わり方」など</li> </ul>
5 小笠原プロジェクト	脆弱な島嶼環境における持続可能な利用のモデルを構築し発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NACS-Jによる小笠原エコツアー・ツーリズムの企画・実施(12月)。</li> <li>・保護林保全管理委員会へ検疫制度の充実やツーリストの動線コントロールの施策展開の提案と実現。</li> <li>・南島モニタリング調査コーディネート、現行ルールの運用見直しの提案。</li> </ul>
6 尾瀬問題	国立公園の登山道のあり方を提言し、オーバーユース問題の解決のモデルにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・至仏山の登山道一部迂回に関する科学委員会をコーディネート。</li> <li>・尾瀬の保護問題への対応継続と保全管理施策への提言。</li> </ul>
7 赤谷プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取りまとめた成果を新たな国有林管理として広く発信する。</li> <li>・市民参加型のモニタリング調査、みなかみ町との具体的事業など新たな主体との取り組みを深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合事務局としてプロジェクトの企画運営と自然環境モニタリングの実施。運営会議、モニタリング会議等の開催運営。</li> <li>・とりまとめた成果を広く発信する機会を林野庁に働きかける</li> <li>・市民参加型モニタリング調査の実施(2回/年程度) <ul style="list-style-type: none"> <li>* 資生堂助成</li> </ul> </li> <li>・旧三国街道活用の推進(マップづくり/モデルツアー実施) <ul style="list-style-type: none"> <li>* みなかみ町補助金</li> </ul> </li> <li>・指導員講習会の開催(地域協議会共催・教育普及部と連携)</li> </ul>
8 保護寄付キャンペーン・イベント	・保護活動と連動した会員・寄付の拡大を展開する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動のPR:「海辺」キャンペーン</li> <li>ミニセミナーと展示、丸の内さえずり館(4月)、青山GEOC(8月)</li> <li>・寄付拡大 パンフレット(1回)・チラシ(2回)の作成配布</li> </ul>

## 保全研究事業

個々の事業で積み重ねてきた市民参加型調査手法のノウハウやデータ、ネットワーク、情報活用基盤であるSISPA、総合事業(綾プロ)、COP10で得られた情報などを有機的につなぎ、地域ごとの状況に合わせて戦略行動計画に着手、実行し、政策に反映すること

事業名		2012目標	事業内容
1	里やま保全研究 (モニタリングサイト1000 里地調査)	データの定期的公開・提供を本格的に開始するとともに、第3期調査にむけた調査設計の適正化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国調査を継続し、一般サイトの再配置や調査手法の見直しを行う。</li> <li>・「指標レポート」の発行やGIBFへのデータ提供を開始する。</li> <li>・シンポジウムや各サイトとの合同発表会等で成果を広く公表する。</li> </ul>
2	自然保護データベース 運営(SISPA)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モニタリング調査を行う市民への支援を上げ、NACS-J独自の市民調査のデータ収集・発信する窓口とする。</li> <li>・グループ機能の利用、自然しらべでの利用などで利用者を増やす。</li> <li>・生態系サービスを踏まえた重要地域選定のためのシステムについて調査をする。</li> <li>・国家戦略、地域戦略策定に向けた提言を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・里やまモニタリング事業のポータルサイト「里モニ」の改良</li> <li>・里モニサイト(モニ1000里地調査ボランティアサイト)の体制づくり</li> <li>・生きもの情報館の広報と活用(自然しらべ・綾・大隅等)</li> <li>・生態系サービスを踏まえた重要地域の選定について情報収集し、綾、下総での適用を検討する。</li> <li>・保護地域への提言</li> <li>・国家戦略策定や地域戦略策定のための提言</li> <li>・WCPA日本委員会への参加及び保護地域に関する検討への提言</li> </ul>
3	東日本海岸調査	被災地における海岸沿いの植物群落の調査、ふれあい調査を行い、復興に係わる海岸域の保全について提言する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本の被災地の海岸植物群落の調査を行う。</li> <li>・被災地の10カ所で調査のための講習会とふれあい調査を行う。</li> <li>・海岸沿いの植物群落RDBの調査を行う</li> </ul>
4	照葉樹林保全研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・綾ユネスコエコパークを中心に保全管理のための取り組みが進む。</li> <li>・金弦の森の保全管理体制が構築される。</li> </ul>	<p><b>綾プロ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユネスコエコパーク保全管理計画の策定及び生物多様性地域戦略の策定準備</li> <li>・ふれあい調査を町内他地域に広める。</li> <li>・ユネスコエコパークセミナー+ツアーの開催</li> </ul> <p><b>大隅調査</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護林設定に伴う協議会の設定</li> <li>・照葉樹林調査の結果を反映した金弦の森保全利用マップの作成</li> <li>・川上地区ふれあい調査をまとめる。</li> </ul>
5	屋久島原生調査	屋久島における原生の30年目の調査を実施する。	屋久島のスギ林に設定された1haプロットの10年ごとの再調査を行う。
6-①	愛知目標基盤整備 ①IUCN事務局運営	にじゅうまるプロジェクトによって、愛知ターゲット実現に向けた、地域NGOを含む多様な主体の参画を促す。2012年は、登録事業の拡大や情報発信の支援をしつつ、にじゅうまるプロジェクトを地域の保全活動の発展/支援につながる仕組みをつくる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・にじゅうまるプロジェクトへの登録事業の拡大(NGOから300事業、企業と自治体から合わせて50事業の登録)と、先駆的事例の収集発信(エコプロ展示や海外発信)</li> <li>・にじゅうまるプロジェクトを国家戦略における取り組み指標に位置づける。</li> <li>・にじゅうまる事業を通して企業とNACS-J事業とを結びつけ企業寄付を使って事業を進めることができる事例を構築する。</li> </ul>
6-②	愛知目標基盤整備 ②国際情報収集業務	生物多様性地域戦略の活用に有用な国際的な情報収集・分析を行い、道プロに活用する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境省と協議し、情報収集業務を提案する。</li> <li>・国際会議(IUCN世界自然保護会議、生物多様性条約COP11)に加え、優良事例の国(イギリスなど)の事例調査と日本の保全活動への活用方法などを検討する。</li> </ul>
7	専門委員会	社会状況等を踏まえた中長期の研究活動方針を定める	保全研究委員会の設置
8	研究共通	緊急案件にネットワークよく対応し、各事業の発展に成果をつなげる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部からの依頼ごと対応</li> <li>・想定していない重要な事業の情報収集</li> <li>・芽だし活動</li> <li>・緊急の現地視察、調査要請への対応</li> </ul>

## 教育普及事業

### 2012年度の目標

- ①たくさんの若い人にNACS-Jの活動に関わってもらう  
 ②指導員を主とした自然保護活動をしている人のステップアップの機会を提供する

事業名	2012目標	事業内容	
1	指導員講習会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講習会のプログラム内に生物多様性保全を強く盛り込む。</li> <li>・開催形態の変更や共催先への働きかけによって、若い人を含めてより多様な人々を自然保護活動に取り込む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共催10回</li> <li>・1泊2日プログラムの自主1回開催</li> <li>・講習会のプログラム内容の変更点や評価を講師・事務局間で共有するために講師会議を1回開催</li> <li>・各県指導員連絡会や地域の自然保護に関わる団体への受講者獲得の協力依頼</li> <li>・新規共催先獲得のための広報</li> </ul>
2	指導員強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導員の支援や講習会の改良に向け、指導員の要望や活動の現状・講習会の成果、講習会の競合プログラムの内容を把握する。</li> <li>・指導員継続率および講習会の受講率を向上させる。</li> <li>・連絡会の活動を支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講習会説明会と指導員相談会の実施</li> <li>・講習会アンケートの改良と新指導員の要望・活動把握及びその対応の検討</li> <li>・パンフレット作成や配布、一般紙への掲載などの指導員制度の広報</li> <li>・新指導員への連絡会入会案内強化やメールでの情報発信</li> <li>・再継続を呼びかけるダイレクトメールの実施・登録証明書・ネームプレート・腕章・保険の対応</li> <li>・メールマガジン配信</li> <li>・連絡会・地域協議会への対応</li> </ul>
3	研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護に関するNACS-Jのノウハウを発信し、保護活動を支援する。</li> <li>・自然保護活動を促進する機会を提供する。</li> <li>・一般の方へ生物多様性の価値・保護の対象を体感・理解させ、活動を支援する。</li> </ul>	<p><b>自主</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然のまもり方をテーマに自然保護セミナーを2回実施する。</li> <li>・地域の自然を理解する研修会を1回実施</li> <li>・依頼される指導員研修会の実施</li> </ul> <p><b>助成</b></p> <p>自主研修会1回実施</p>
4	委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会状況等を踏まえた教育普及事業の中長期の活動方針を定める。</li> <li>・講習会の1泊2日プログラム実施の課題抽出と改善策の検討、フォローアップ等の内容を固める。</li> </ul>	<p><b>教育普及委員会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育普及委員会の設置</li> </ul> <p><b>指導員養成WG</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5回程度の会議を開催する。</li> <li>・講習会の1泊2日プログラムの定型化</li> <li>・自主研修会の枠組みの整理とプログラムの検討</li> </ul>
5	自然しらべ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貝殻を通じて、海辺の自然の豊かさに気づく機会を提供する。</li> <li>・自然観察指導員に活躍する機会を提供する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しらべ方の勉強会を4回実施。</li> <li>・企業・団体の生物多様性分野の活動(社会貢献活動・CSR活動・ボランティア活動)の一つとして参加を定着させる。</li> <li>・昨年度の成果を活用して全国一斉自然かんさつ会を実施する。</li> </ul>
6	自然保護教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業のCSRとして自然観察会を普及させる。</li> <li>・生物多様性保全に貢献するCSR活動を普及する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に企業への自然観察会の持ちかけ、実施。</li> <li>・観察会開催依頼などに対応。</li> <li>・企業向けセミナーの実施。</li> <li>・メールマガジンの作成・配信</li> </ul>
7	自然観察路コンクール	自然観察路コンクールの実施を通じて、自然観察の大切さを世の中に広める	・自然観察路コンクールの募集、審査、決定等実施
8	ライブラリー管理	登録作業を維持し、情報活用を提供する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般図書・報告書・ニュースレター等を登録管理、閲覧サービス</li> <li>・本棚の一斉整理</li> </ul>
9	教育普及・共通	NACS-Jの認知度を上げ、会員・支援を獲得する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部からの講師・委員の派遣・紹介、後援依頼・原稿執筆依頼対応</li> <li>・外部イベントでの展示や各種パンフの配布等(モンベル、エコプロダクツ展)</li> </ul>

# 広報・編集事業

## 2012年度の目標

- ①各事業の見せ方・広報の仕方を工夫する。
- ②メディアを使い分けて情報発信力を高める。
- ③NACS-Jの活動を知る人の層を広げる。

事業名	2012目標	事業内容
1 情報発信事業	①コンテンツを活用(流用)し、媒体を使い分けて広く発信する。20～30代向けアピールを試行する。 ②web新規認知者を30万PV増やし、100万PVにする。 ③webからの寄付・収入を増やす。	<b>■記事制作(会報・web用)</b> ・特集、グラビア(会報・web共通) ・会員専用記事(主に会報/会報WG) ・web専用記事 ・振込用紙の貼付による入会獲得 <b>■既存資料の活用(主にwebに)</b> ・資料集・フィールドガイド・会報などの既存資料から今も価値のあるものを発掘し、リメイク(スマホのアプリなどへの売り込み)
		<b>■会報発行(印刷・発送)</b> ・会員向け情報誌 ・年6回(隔月)発行 ・発行費削減案の検討
		<b>■web(サーバー管理、HTML外注、システム改善)</b> ・オフィシャルサイト…組織情報のディスクロージャー、活動報告、参加・寄付の呼びかけ ・BD10.jp…NACS-Jや会員・関連団体等の情報提供 ・twitter、Facebook、メルマガ…サイト情報の発信・オフィシャルサイトへの誘導 ・あたらしいメディア(スマホなど)対応を検討 <b>■サーバーの移転(新)</b> ・webの使用方法の変化に伴う移転 <b>■NACS-Jサイトへの協賛広告の働きかけ(新)</b> ・webサイトへの広告掲載を検討し、協力企業・自治体等に働きかける
		<b>■インターネット有料広告の出稿</b> <b>■web課金システムの導入検討、試行(電子書籍含む)</b>

広報会議	全事業に広報活動を組み込み、企業・自治体・市民等幅広い層に効果的にNACS-Jの自然保護活動の意義を伝え、支援者を増やす	・各部の職員から構成される広報チームの運営 ・毎月1回、広報会議の開催(外部助言協力者の招聘あり) ・各事業での広報活動の機会を共有・調整し、効果的な実施方法を検討。実行の徹底。結果の確認。 ・広報手法の検討、試行、改良、チャレンジ
------	--	---

## 事務局運営事業

### 2012年度の目標

- ①事務体制を整え、円滑に事務局運営を行う。  
 ②最も重要な基盤である会員・寄付金の維持拡大に努める。

事業名		2012目標	事業内容
1	事務局運営	・事務局運営上の課題への迅速な対応・解決を図る。 ・諸規程の整備を図る。	・ワーキンググループの設置 ・事務局運営における課題の検討 ・諸規程の整備、印刷
2	収入基盤整備	会員・寄付金の維持拡大のため、管理部としてできる取り組みを検討・実行する。	<b>会員</b> ・入会DM発送(資料請求者、保護地域等に関する市町村・宿、企業CSR部局等) ・団体会員へのメリット付与(会員証の発行、Web・会報等での紹介)の検討・実行 ・パンフレット設置先への定期発送 ・期限切れ会員への再入会勧誘DM送付 ・個人会員証・会費領収書の作成
			・個人入会パンフレットの作成(従来版、簡易版) ・団体入会パンフレットの作成
			<b>寄付金</b> ・非会員寄付者へのDM(12月) ・寄付お礼はがきの作成 ・信託銀行へ寄付対象先のはたらきかけ ・遺産信託、公益信託商品のPR(チラシ作成) ・寄付企画への対応
3	システム基盤整備	正確なデータ管理のため、会員管理システムを改善する。	寄付データの蓄積システムの改良、ゆうちょ銀行口座引落システムの変更への対応等
4	刊行物管理	2011予算と同額の収入を目指す。	・販売書籍の仕入れ・在庫管理、通販委託管理(狼森、トーコロ) ・フィールドガイドシリーズの増刷への対応
5	日本自然保護協会沼田眞賞(牧田基金事業)	顕彰制度によりNACS-Jと賞の認知度を高める。	・会員・一般へのPR強化 ・別事業と組み合わせる等により、広報効果を高める

## 保護交渉事業

事業名		2012目標	事業概要
保護交渉事業		保護の具体化・前進の確実な獲得	①国の施策への有効な多様性保全施策の組み込み(土地利用施策の改良誘導) ②保護地域化困難地への保護地域化(新設、拡大) ③国立公園・自然環境保全地域・保護林の一元管理方策の進展 ④国有林への多様性保全型施策の組み込み(モデルプロジェクトの普遍化)